

土壤適さず、畜産に活路を

佐賀県玄海町の値賀^{ちが}開拓は、県北部に突き出た東松浦半島の西側に位置する。

標高180mで、地質は玄武岩・粘土質の強酸性で、畑作にはあまり適していなかった。

46年に引揚者や地元の2・3男などの開拓志願者が、15日間開拓訓練所で基礎訓練を受けて、28戸が入植した。

原野と雑木が生い茂る解放地に、1戸当たり1ha余の配分を受けた。いわゆる、開墾鋤による手開墾だったので、大変な苦労となった。

最初に作付けたのはさつまいも、じゃがいも、菜種、大根などだが、強酸性土壌のため収穫は少なかった。

50年には農村工業として、精米・精粉を行い、素麺も作った。地区外からの利用者も多く、大繁盛したこともあった。また、この年に電気が開通し、皆で涙を流して喜びあった。

60年頃には、これまでの作物だけでは経営を確立することができないので、梨・みかんを植栽した。しかし、玄海灘から吹きつける風により、品質が悪かった。

また、北海道から乳牛17頭を導入し、17戸に分配して経営の安定を図った。その後、増頭を重ね、酪農団地として県内外から注目を浴びるようになった。

76年時点で、酪農家5戸、肉牛2戸、養豚3戸、養鶏1戸、みかん農家3戸、畑作1戸となった。

96年、栄公民館敷地内に「栄区50周年記念碑」が建てられた。栄区の由来として記念碑には「一鋤、一鋤山林原野を切り開き、眠れる大地を開墾する偉業を為し、村の発展を期して<栄村>と命名し」（抜粋）とある。

現在も肉牛農家ががんばっており、この地を守っている。

値賀（ちか） 41-387-1

①調査日 令和6年12月23日

②所在 佐賀県東松浦郡玄海町大字石田

③地区の沿革 東松浦半島の西南端、玄海原子力発電所の南東、2.5kmの起伏の多い上場台地に位置する。標高180m、玄武岩・粘土質・強酸性の土壌で気候は比較的温暖である。昭和21年11月、引揚者や地元2・3男で開拓を志願する者が開拓訓練所に入所し開拓者としての基礎訓練を受け、1戸当り1ha余の配分を受け28戸が入植した。（「佐賀県開拓農業三十年史」より抜粋）

④設置年月日 平成8年11月23日

⑤設置者 区五十周年記念事業委員会

⑥碑文（表面） 栄区50周年記念碑

⑦碑文（裏面） 碑文

昭和二十年（一九四五）八月十五日/第二次世界大戦の終結に伴い、復員/軍人、外地引揚者、戦災者、農家二三/男の就労と食糧確保を目的とした緊/急開拓事業に基く農地改革の自作農/創設特別措置法により昭和二十一年十一/月二十三日この地に入植し鋤入れをした/二十八名の闘士は、筆舌に尽し難い困難/を克服し、一鋤、一鋤山林原野を切り開/き、眠れる大地を開墾する偉業を為し、/村の発展を期して「栄村」と命名し、粉骨碎身、一致団結して住宅を建設し、道路/電気、上水道、公民館、土地改良事業/等あらゆる辛苦を七転八起の精神で/克服し既存農家の営農をはるかにし/のぐ現在の地位を築きあげた/ 茲に近代オリンピック百周年の年に/そして世界焔の博覧会が開催された/この年に開村五十年を記念し、新農/村の村づくりに命をかけた先駆者の方/々のご冥福をいのり栄区の将来に限り/なき繁栄と発展を祈念し、本碑を建立/して二十世紀へ向けて前進するもの/である。

平成八年十一月二十三日

栄区五十周年記念事業委員会

⑧現在の状況 地区内に建立され管理されている。